

## 2023 年度第 1 回豊岡市環境審議会 会議録

日 時：2023 年 8 月 31 日（木）9 時 30 分～12 時 5 分

会 場：豊岡稽古堂 3 階 交流室 3-1

出席した委員：山室敦嗣（会長）、雀部真理（副会長）、青柳順子、安藤有公子、木築基弘、  
田原美穂、永田兼彦、西垣由佳子、岡本豊博（水嶋委員代理）、村田美津子、  
山下正明

欠席した委員：黒田和真、野世英子、洞田美津子、増原直樹、水嶋弘三

事 務 局：コウノトリ共生部 部長 坂本成彦

コウノトリ共生課 課長 成田和博

コウノトリ共生係 係長 兵藤未希、主任 宇田川卓義、主任 戸田早苗

脱炭素推進室 室長 井上浩二

担 当 課：くらし創造部

生活環境課 生活環境係 主査 亀本秀樹

地域づくり課 コミュニティ振興係 主査 小田垣聡

コウノトリ共生部農林水産課

林務・水産係 主幹 原田 英生

農業政策係 参事 山本隆之、主幹 西村文紀、主事 松村達也

環境経済部環境経済課

経済政策係 主査 雨森良太、主任 中田智美

### 1 開会（司会：成田課長）

- ・会議の公開、傍聴の許可、会議録の公表を確認

### 2 あいさつ

- ・山室会長、坂本部長より挨拶

### 3 新任委員紹介

- ・黒田委員（環境省竹野自然保護官事務所）
- ・水嶋委員（豊岡コウノトリ森林組合）
- ・水嶋委員の代理として岡本参事（豊岡コウノトリ森林組合）出席

### 4 協議（議長：山室会長）

- ・配布資料の確認

#### （1）環境審議会の進め方について（事務局）

環境報告書は、年 2 回の審議でとりまとめを行う。環境審議会で審議するのは第 2

部「目標とする姿への取組み状況」と第6部「2022年度の環境に関する取組みについて豊岡市環境審議会の意見」で、本日は第2部を審議する。目標像については項目ごとに取組み状況の現状を確認し、3段階で評価を行う。

《評価基準》

- ・よくがんばりました：▲(マイナス評価)より○(プラス評価)が3つ以上多い
- ・この調子でがんばろう：▲より○が1～2つ多い
- ・もっとがんばろう：▲と○が同数、または▲が多い

また、目標像①豊かな森、目標像②里山、目標像③田んぼ、目標像⑥祭り、行事、目標像⑧ごみ、目標像⑩環境経済については、担当課が出席し、審議が終わり次第退席する。事務局案としてトピックスの項目を資料に記載しているため併せて確認をお願いする。

第6部「2022年度の環境に関する取組みについて豊岡市環境審議会の意見」については、第3回の環境審議会で協議するため、第2回審議会(10月13日予定)には提出をお願いする。

地球温暖化対策実行計画(区域施策編)の改定については、年3回の審議会にて予定しており、仔細については次回の審議会にて説明する。

今後の予定については、資料の裏面に今年度の審議会スケジュールの予定を載せている。

(2) 2022年度環境報告書(案)について

【会長】目標像①～⑩まで順番に事務局からの説明をうけて審議する。

**目標像① 手入れの行き届いた豊かな森が、きれいな空気や水を育んでいます**

【事務局】昨年と比較し、広葉樹苗木提供数が公共施設に十分にいき渡ったため近年0で推移している点と、世界的な木材高騰を受け朝来バイオマス発電所の発電が停止した点、森林環境譲与税に関する記載している。

森林環境譲与税は2019年に創設され、豊岡市では森林・林業ビジョンの策定や新文化会館の県産材調達に使用される予定である。

トピックスとしては、豊岡市森林・林業ビジョンの策定を挙げており、持続可能な豊かな森林環境と森林資源の活用を目指している。

2022年度の目標像への評価(案)としては、森林・林業ビジョンの策定と森林環境譲与税の利用についてプラス評価を2つ追加し、昨年度より1段階アップの評価と判断した。

【会長】意見や質問があれば発言してください。

- 【委員】 広葉樹苗木提供数について、公共施設に行き届いたためとあるが、報告書には針広混合林化や土砂災害への防災の記載があり、公共施設とイメージが結びつかない。
- 【担当課】 ここでいう公共施設とは学校の事であり、学校からの希望が無いということ。
- 【委員】 学校の校庭などに広葉樹を植樹することで、山林ではないということであれば、報告書の書き方を変えた方が良い。
- 【事務局】 意見を基に、書き方を修正する。
- 【委員】 森林組合で植樹した本数等はわかるのか。
- 【委員】 面積当たりの本数などから植樹した本数はわかる。
- 【会長】 ではそうしたものと置き換えることも検討してはどうか。
- 【委員】 林業ビジョンの中で、学校以外にも広葉樹の提供を進めようというような話はあるか。
- 【担当課】 ビジョンの中では、記載はないが今後検討していきたい。
- 【委員】 それでは、報告書中の針広混合樹林化を進めているという話は事実と異なるのではないか。
- 【委員】 森林を伐採する際に土砂崩れの防止のため、皆伐するのではなく広葉樹を残して伐採している。広葉樹はシカに食べられやすいため、植えてもシカの餌となってしまう。将来の利用も考え、植樹は基本的に針葉樹のみ行っている。
- 【委員】 目標像には豊かな森と書いてあるが、針葉樹のみ植えていても豊かな森とは呼べないのではないか。
- 【委員】 一部で広葉樹を植えている所もあるが、大面積では難しい。

【委員】すでにある広葉樹を残すことで混交林化を目指しているということか。

【委員】一概にそうとは言えないが伐採した後、針葉樹の植樹を繰り返すことで次の森林を作っていきたい。

【担当課】森林整備を行う中で、今後検討できたらと思う。ビジョンの中にも広葉樹に関する記載はある。

【委員】広葉樹を植えると書いてある？

【担当課】植えるという言及はされていない。

【委員】広葉樹に関しては、次回林業ビジョンでの位置づけや数値目標などの報告が欲しい。

【担当課】必要な資料を提供する。

【委員】グラフの説明が審議会の理想を語っているだけになっているなら、第6部審議会からの意見に回すなどしてはどうか。広葉樹に関しても取組みが進んでいないのであれば「よくできました」は言い過ぎではないか。

【委員】「よくできました」という評価は、林業ビジョンができたことによるものか？

【事務局】森林・林業ビジョンの策定に加え、森林環境譲与税の適切な利用から、具体的な目標とその実行に向けた取組みを評価している。

【会長】ここでの評価は暫定的な案であるため、審議の結果の修正はどんどんしてもらって結構。

## 目標像② 里山がさまざまに利用され、関わる人が増えています

【事務局】有害鳥獣について、昨年被害がなかった林業への被害が再度見られ、一方でシカの有害捕獲頭数が、2014年の被害撲滅大作戦開始後初めて6,500頭という目標数を割り込んだ。その他、新型コロナの影響が随所に見られ、森林公園の利用者減や、ラム歩き登山が中止されている。

トピックスとしては、森のようちえん「つむぐり」の活動をとりあげ、未就学年齢の子どもたちが、保育を通じた山や農地での自然活動体験をしている様子を紹介している。

評価については、シカ有害被害撲滅大作戦に関する書きぶりを少し修正したがプラス評価は変えていない。農林業被害についても、林業被害が再度見られたが、被害の最盛期と比較して低調であるため、評価は変えていない。

総じて 2022 年度の評価は昨年と同様と考えている。

【委員】有害鳥獣駆除数にサルは含まれているか。農林水産課から送付されるサルメールを見ていると被害地域が増えているように感じる。

【担当課】サルによる農業被害はあり、有害鳥獣として駆除を行っている。豊岡では城崎 A 群と呼称される 36 頭のグループが確認されている。

サルは県の管理計画により、全ての個体を駆除することはできないが、危険個体とみなされる大人のオス猿については駆除が認められており、昨年は 4 頭、今年は 3 頭を駆除している。

サルの行動範囲は、城崎から奈佐谷までと広いため、サルの監視や追い払いを委嘱している集落対策支援員より、サルメール等を用いた速やかな情報提供を行ってもらうのに加え、農業者にはサル除けの柵の補助の利用を呼び掛けるなどし、今後も対策と適正な管理を続ける。

【委員】自身が被害地域に居住していることもあり、支援員がこまめに活動をしているのを目にしている。被害だけではなく、そうした人々の頑張りも報告書で触れることができると感じている。

【委員】あわせて有害鳥獣対策員の活動も取り上げればよいと思う。

【委員】森林公園や、森林ツーリズムの項目について 2022 年度の情報が中止ばかりになっている。その情報も必要だが、ほかに開催されているイベント等を取り上げてみてはどうか。

【委員】里山に該当するかはわからないが、北但クリーンパークでも子どもたちを集めてイベントなどが行われている。

【委員】どこまで里山に区分するかはあるが、昨年はコロナ禍と言いつつ民間でも

いろいろなイベントが行われていた。ただイベントは他の目標像と重なることもあり、記載場所に選択が必要、目標像⑦とか。

【委員】ヤマビルや、マダニへの対策は、オオキンケイギクの時のように広く周知はしないのか。また農業被害・林業被害の年変動の変化要因はわかっているか。

【委員】ヤマビル対策等は、市議会でも質問されており、今後検討する。

【委員】シカの頭数については、減っているのか。中山間地域で農業をする者にとって獣による被害は、精神的にまいる。天候のせいなどで作物が取れなくても仕方がないと思えるが、獣害はそうではない。6,500頭という目標は今後どうするのか。

【担当課】6,500頭という目標は今後も維持する。豊岡市内に生息しているシカの正確な数は誰にもわからない。県では狩猟者とシカの遭遇数や、糞塊数調査などにより捕獲頭数の目標を定めているが、6,500頭という数はその数よりも多い。  
ただ豊岡は捕獲圧が大きいので西に移動しているという話もあり、体感的には減少しているように感じる。代わりに小動物による被害が増加しているのでそちらの対策も行っていきたい。

### 目標像③ 使われていない農地の利用が進み、生きものの豊かな田んぼが増えています

【事務局】地産地消について取組みが広がっている。2016年度から減農薬で育てられたコウノトリ育むお米が給食に使用されており、2022年度から期間限定ではあるが無農薬のコウノトリ育むお米が提供されている。また、たじまんま豊岡店での豊岡産物が売り上げに占める割合も昨年に続き8割を超えるなど地産地消が進んでいる。

トピックスとしては、第0回豊岡グッドローカル農業大会に合わせて開催されたGLAマルシェ開催についてと、兼業農家ながら水田マルチトープ等に取り組む出石の家元さんの取組みを紹介している。

評価については、環境創造型農業について、面積は、微減しているものの、育む農法の面積は増加しているため、書きぶりを少し変更した。

また農業スクールの卒業生が25人を超えた点を追加した。一方、農家数の減少に伴う農地経営面積の減少をこれまで記載のなかったマイナス点として挙げているものの評価としては昨年度と同様となっている。

【委員】「(2) 環境にやさしい農業」についてだが、最近水田で使用される被覆肥料や一発肥料とよばれるプラスチックの殻に覆われた肥料があるが、自治体によっては排水時に流出しない工夫をしている所もある。豊岡市でも対策のビジョンなどがあれば教えてもらいたいし、報告書にも記載すべきではないかと感じている。

【委員】数年前から環境に対する影響は言われており、農業者団体でも自然に帰る素材を利用した被覆肥料の研究等は行われている。ただ時間が必要なので昨年より、被覆肥料を流出させないよう農業者にはお願いをしている。従来であれば、稲の成長に合わせて肥料を与えていたが、高齢化や人手不足により、以前の方法には戻れない。

【委員】難しい問題であるが、社会的に脱プラスチックの流れがある中で、環境報告書に記載がないのは、指摘を受ける可能性がある。来年度のトピックスなどで取り上げるべきではないか。

【関係課】被覆肥料が使用されているのは慣行栽培で有機栽培には使われていない。

【委員】環境創造型農業の推進を行い、特別栽培米等の面積が増えることで被覆肥料の使用量を減らすこともできる。  
みどり戦略で国が掲げている有機農業面積の目標は2050年で25%、但馬では特別栽培米を合わせた面積では30%を超えており、今後も環境創造型農業の推進に取組みたい。

【委員】評価に農業スクール生のことが挙げられているが、卒業後の姿なども今後のトピックスなどで紹介するのはどうか。

【事務局】検討する。

【委員】国として食料自給率が低下しているが、消費者が意識して地元産・国産を食べることで自給率の向上にもつながる。売れないと農業者も経営が立ちいかなくなるし、環境の事を考えても地産地消・国産国消が望ましい。そうしたことも記載してもらいたい。

【委員】旬菜旬消を掲げることで、地元産物の消費も増えるし、エネルギーの消費

量も減る。

【委員】 たじまんまでは豊岡産物の販売額が全体の8割を占めているが、市場に出したくても出せない交通弱者の人からルート便で野菜を預かるということをやっているためでもあると思う。高齢者のやりがいや健康づくりにも繋がることだと考えているので、この取組みを続けたい。

#### 目標像④ あちこちの川や海辺で、子どもたちの楽しむ声がきこえてきます

【事務局】 川の水質保全に係る公共下水道の水洗化率が目標の95%を達成した。また子どもたちの体験活動については、小学校の統廃合の影響もあるが、22年度は全ての小学校で川の体験活動が行われている。清掃活動については、川清掃・浜清掃ともに多くの団体がボランティアで実施してもらっている。

トピックスでは、下鉢山の水田ビオトープ「六方めだか公園」の長年の自然保護活動に対して、みどりの日自然環境功労者環境大臣表彰を受賞されたことを紹介している。

2022年の評価は、下水道の水洗化率が目標を達成したことからプラス点として追加、マイナス点の不法投棄についてパトロール班に意見を伺うなどし、記述を具体化した。評価としては昨年度より1段階アップと考えている。

【委員】 不法投棄のパトロール時にゴミをどれだけ拾ったか、というような実数は出せないか。数があった方がイメージもしやすい。

【事務局】 以前も委員より、不法投棄場所の写真を撮っておけば、定期的なごみの増減が把握できるという提案があったが、豊岡市全域となると難しい。そのため実務者の所感にとどまっている。

【委員】 今回とは言わないが、やはり増減がわかるような数字がある方がもう少し理解が進むと思う。

【委員】 海でも漂着ごみやマイクロプラスチックは増えており問題となっている。豊岡市の補助により、毎年海岸清掃や船でしか行けない場所のごみ回収を行ったりしている。

【委員】 清掃活動については、役務として行っている部分もある。初めて参加した



人が楽しさを感じることができるよう活動、例えば谷山川の事例のように、環境学習で水質と生き物の事が学べるというような工夫や努力が必要。よその事例では、ブルーツーリズムの一環としてパッケージングしている所もある。

#### 目標像⑤ コウノトリも住める豊かな生態系が、バランス良く保たれています

【事務局】コウノトリの野外個体数は順調に増加し、現在初営巣3市町を含む市外17市町で営巣が確認されている。また湿地管理ボランティアの人数もコロナ禍以前に回復している。

トピックスとしては「生物多様性地域戦略短期戦略Ⅲ策定」を挙げており、これまでの方針は維持し具体化のための数値目標の設定や、「第一次産業の価値を評価する」という新規方針を追加している。

2022年度評価としては、評価理由の変動もないことから昨年度と同評価であると考える。

【委員】生物多様性地域戦略の短期戦略を策定したものの、活動方針を決める会議がまだ開かれていない。他の委員も気にかけていると思うので連絡してほしい。

【事務局】できるだけ早いうちに推進委員会を開催したいと考えている。連絡も行う。

【委員】コウノトリの増加につれて、電柱に巣を作っては撤去されるという光景を何度か目撃している。住民としては近くに巣を作ってくれてうれしい反面、事故が起こらないようにしないといけないという面もあり、新たな課題だと感じている。

【事務局】2022年度末で野外コウノトリの数は298羽となっており、今年度は371羽とこのままでいけば来年400羽、再来年500羽と増えていくと思う。そのため今後ますますこのような事例や事故は増加していくと思う。しっかりと考えていかないといけない。

【委員】以前は電柱の巣を撤去すれば近くの人工巣塔へ移ることもあった。最近でも電柱の巣の近くに、地元の有志で建てた巣塔を用意したところが2地区あるが、結局今年は使われなかった。必ずしも人間の思いだけでなく、コウノトリが使ってくれないと今度は立てすぎたという話になってしま

う。

コウノトリは現在天然記念物だが、いずれはどこにでもいる普通種にという目標もあり、今は大事にされているが、いずれそういうこともなくなっていくということを行政や研究者が今のうちから周知していく必要があると考える。

【委員】外来種のおオキケンケイギクについて、あるイベントが開催された際に自治体により景観美化のため導入されたという話がある。自治体には、市民に今一度周知してもらいたい。でなければ、見た目の美しさから、刈った際に反発があり、駆除が進まないなどの現状がある。

【事務局】当方では、約30年前に開催されたイベントの際に、道路改良に合わせたのり面補強のために使用された緑化資材に含まれており、それが今日まで生き残っていると聞いている。

いずれにせよ、来年度には外来種対策行動計画を定め、駆除の計画を立案し、外来種駆除の周知と実践に取組みたいと考えている。

#### 目標像⑥ ささまざまな世代の人々が、地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげていきます

【事務局】目標像⑥については、歴史博物館の来場者数が特別展示の影響もあり、コロナ禍以前の水準に回復している。また2022年度地域コミュニティ組織活動事例集より、日高町八代地区の「八代オクラ栽培プロジェクト」と但東町高橋区の「子ども応援プロジェクト「つばめ」」を紹介している。

トピックスとしては、節目の開催となった「第50回出石お城まつり」を挙げている。2022年評価としては、プラス点だった「歴史博物館「但馬国府・国分寺館」における公開講座の開催数と参加者数が増加している。」を数値の減少により削除し、2022年度の評価は1段階ダウンとしている。

【委員】コミュニティの活動事例として取り上げられている八代オクラは、以前のトピックス等で取り上げられたことはないか？

【事務局】確認し、必要があれば修正する。

【委員】事例集の二次元バーコードのリンク先は、各年度の事例集ではなくコミュニティのトップページにすべきではないか。

【事務局】変更する。

【委員】子どもたちの地域を学ぶ機会について、学校での行事等、義務的に参加している人がほとんどであり、自主的に参加している人は少ないと思う。正直な所、子どもたちは歴史文化には関心が薄いと思う。強制するのではなく、子どもたちに地域のことに興味を持ってもらい、勉強してもらうことが大切であり、地域のことを知るモチベーションを高めるような取組みがあればいい。

#### 目標像⑦ 子どもたちが、身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています

【事務局】コウノトリ KIDS クラブの会員数はコロナ禍以前の水準に回復し、出張田んぼの学校実施回数も戻りつつある。一方、水田ビオトープでは、出石町の寺坂区の水田ビオトープが委託契約から外れてしまったものの、他地区のビオトープで面積が増加し、全体としては面積が増加している。トピックスとしては出石町谷山川でのミズアオイの保護活動を挙げており、毎年地元の有志と出石中学、出石高校の生徒達のボランティアにより、きれいに咲いたミズアオイの鑑賞会が開かれている。2022年度評価としては、評価理由の変動もないことから昨年度と同評価であると考えている。

【委員】「コウノトリ KIDS」OBの子と関わる機会があるが、自身の SNS や動画サイトで投稿者とコラボレーションを行って豊岡の情報発信を行ってくれている。こうした KIDS 出身の子どもたちがメッセンジャーとして、豊岡の良さを発信できる風土を作っていければもっと、その価値が深まっていくと思う。

関心の薄い子どもたちにも、興味を持ってもらいやすいと思う。

【委員】評価の書きぶりについて、「～募集人数以上の応募があり、地域外に発信していく子どもが育っている～」という風にしてはどうか。

【事務局】そのように追記する。

#### 目標像⑧ 市民みんなが、ごみの減量化を実践し、1人あたりの排出量が徐々に減っています

【事務局】資源ごみの搬入量や集団回収量は減少傾向がみられるが、スーパーマーケット等の施設でのプラスチック容器や紙パックの回収、リサイクル業者による古紙回収 BOX の設置等資源ごみの回収手段が多様化している事も一

因と考えられる。農業用廃プラスチックの適正処理数も増加傾向であり、適切な処理が進んでいると考えることができる。トピックスにはプラごみ削減キックオフイベントの開催をあげており、豊岡出身の大学生や高校生やよるトークイベントが行われ、各自の環境活動の取組み紹介や、市の環境施策への提言が行われた。2022年度の評価としては、豊岡市プラスチックごみ削減対策実行計画の策定もあり、プラス点「○プラごみの削減に向けて、取組みが進んでいる。」を追加しているが、評価としては昨年と同様と考えている。

【委員】下水処理場の汚泥を肥料として再生したものを、一般配布していたと思うが、そうした取組みは珍しいのか？

【事務局】他自治体などでも取組みはされている。取りに行かなければならないのがネックなのか、あまり利用者がいない。ただ、議会での一般質問でも聞かれたり、昨今の世界情勢による肥料高騰などを見ていると関心が高まっていると感じる。

【委員】以前使用したことがある、年に一度コミュニティなどに配送してもらえると利用される人が増えると思う。

#### 目標像⑨ 市民みんなが、楽しみながら省エネ行動を実践し、再生可能エネルギーの利用も増えています

【事務局】コバスの利用者数がコロナ禍以前の水準に回復しつつあり、太陽光パネルの設置補助数が住宅用・事業者用ともに順調に増加している。トピックスとしては、豊岡ノーマイカーデーが月2回拡充されたことを挙げており、ノーマイカーデーでは定額で1日路線バス等が乗り放題になるチケットも販売されるなど、観光等への活用も期待されている。2022年度評価としては、評価理由の変動もないことから昨年度と同評価であると考えている。

【委員】コロナ禍のこともあり言いづらいが、ラジオ体操イベント「ヤッホーの日」のように、声を掛け合い相乗りとかができればと思う。

【委員】33ページのグラフについて、公共交通と書いてある割には、市営バスの情報しかない。他交通機関データも載せるべきでは？

【事務局】記載ができるか確認する。

【委員】 ノーマイカーデー以外でも、乗せっぱなしの荷物を下ろす日などを作ってみてもいいと思う。積載量が減ればCO2の排出量も減少する。

#### 目標像⑩ 環境をよくすることで経済が活性化され、交流も広がっています

【事務局】 環境経済認定事業者数については、今年も3事業者が認定され、これまで累計87事業が認定されている。コウノトリ育むお米の輸出については、輸出先としてフランスが減り、輸出量も微減している。コウノトリの野外での目撃情報提供数は、コウノトリの野外個体数の増加に伴い昨年度は約3万件弱と過去最多となった。トピックスとしては、コウノトリの生息地でのボランティアツアーを挙げている。

【委員】 全体を通じてだが、評価のところで、悪化したから評価から消すというのではなく、例えば▲などを文頭につけるなど、どこを頑張れば評価が上がるようになるというのを見えるようにするのはどうか。

【事務局】 検討する。

【委員】 コウノトリ育むお米について、海外輸出は知名度アップにも繋がるが、消費についてはほとんどが国内である。以前は低かった全国的な知名度も、消費者が食の安全性に敏感になり、コウノトリ米のストーリー性、安全安心な食品であることが知られ、国内での知名度が高まっている。海外輸出はステータスではあるが、年間の販売量のわずかのみであるため、そこを評価するのではなく、国内での販売量や、コウノトリ育む農法が環境を良くしているということを広く知ってもらいたい。

【委員】 出荷量のグラフ等に詳細な説明をいれてみるのはどうか。

【事務局】 記載を追加する。

【委員】 ほかに追加できるようなグラフ等はあるか。

【委員】 輸出が国別となっているので、都道府県別での出荷量を示すのはどうか。

【事務局】 データの提供を依頼し、記載を追加する。

【委員】目標像 10 について、環境経済認定事業は現状で 77 もあるが、記載がこれだけしかない。環境経済課にはプラットフォームとして、共同プロモーションを行うなど支えてもらいたい。また、行政が行う環境イベントへの出店を促したり、支援してもらいたい。

【委員】文化館来館者数のグラフの説明がマイナスな表現で終わっている。来館者満足度は別の話なので、書き方を団体客が減り個人旅行が定着している旨を最後に書くなど、工夫してほしい。

【事務局】修正する。

### (3) 第 3 部、第 4 部の掲載方法について

【事務局】第 3 部 豊岡市の環境の状況および第 4 部 市の取組み実績については、豊岡市の環境施策上重要なデータであるが、内実数値の経年変化報告という資料集的な性格が強いと考えられる。また本市では資源消費削減のためペーパーレス化にも取り組んでいるため、製本時には今年度より 3 部 4 部の印刷は控え、豊岡市ホームページ上での公開とすることを提案する。

【会長】異論はないようなので事務局の提案で進める。

## 5 その他

- ・委員報酬の振込について

## 6 閉会

- ・雀部副会長あいさつ